

ガラスの浮島



子供の遊び場の過剰な制限や、システムチックに生産される住宅たち、制約の多い現代において様々な余事象を許容することができる懐の大きさを持った家が必要であると考えた。本提案では、余事象を許容する存在として「器の大きさ」に着目した。地形に対してガラスを流し込み、それらをかたどったガラスを持ち上げることで空間を構成する。自然とともに生きる形をした浮島それぞれが家の役割を持ち、大地と調和する食卓のような大きさをもったガラスの建築である。

